

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年三月
音思	由美子 俳翁 みづる 清吉	マスミ ひろし				風舎	ひろし		ひろし	しんい マスミ 由美子 風舎 月を かげろう 俳翁 あきひこ	俳翁	稀香 六弦 道を		ことは 六弦	
山の友達者なたより雲の峰 コ罗纳禍で会えぬ日々が長く続いたなかで友人からの元気との頼りは受け手にとつて心強く感じます。	登り切る千十五段風薫る 千段以上の階段を上ったことがあります。20代のころでしたが本当に厳しかったです。なんとか最終バスに間に合いました。作者のやれやれという様子がうかがえ、季語も効いている。全身で感じる爽やかな風の実感が直に伝わってくる。階段を登り切った達成感と季語が上手く調和している。	パドックに鼻息荒らしダービー馬 間もなく出走となる馬たち、パドックで調整しながら、もう既に興奮して鼻息の洗い馬もいる。やがて始まるレースの興奮が伝わってくる。	春の雲独りの窓辺流れ往く	卯木咲く君とのけじめつける日に	片屋根を覆ふ茨の香の明か	珈琲は深煎り初夏のテラス 初夏のテラスの爽やかさと、珈琲の香りが、読者にも伝わってくるようだ。	半枯れの幹黒々と柿若葉	露草の咲き空の色ちりばめり	鉄棒に競り合ふ父子立夏かな 競り合うまでになつた子の成長の喜び。	筍にじかに値を書く露店かな バーコードなど必要ない露天なればこそ。勢いを感じます。筍どんな料理にしようかな。よく見えていますね。確かに見たことの景であり、この詠まれると脱帽。「じかに値を描く」が季語に効いている。道路沿いの店か。筍に直に値段が無造作に書いてある。飾り気のない無口な売り手の顔が浮かぶ。きつと取れたてで美味しいだろう。採りたての筍を飾らず販売する露店商か、買って食べたくなる。露店店主のいい意味でのいい加減さが見えるよう	郷愁をつつみ込みたる柏餅 若き日の故郷でのいろんな想いを代弁している柏餅なので。	初蝶や月に一度の面会日 やつと会える高揚感と初蝶に遭遇するという二重の嬉しさが伝わる。青葉風の一歩良い季節ですね。きつと良い事が起きるでしょう。	鳥よりも早く目覚める五月かな	夏来る双眼鏡を探す父 野遊びが楽しみな初夏ですね。わくわくのお父様が浮かびます。	
茂樹	新暦文	俳翁	倉田詩子	森佳月	しんい	荒一葉	幸子	衛	高原ひろし	河野凡士	西村青夏	檜鼻ことは	古賀由美子	新井のり子	

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年三月
			美枝子	道を		のり子 凡士 六弦					文里 曆霜	稀香 マスミ 京子	孝里 霜佳 月思 音香	凡士 あきひこ	
古木なるほど大輪の牡丹かな	熱帯夜一夜一夜に人見頃	なんとなく生きているひと夏あざみ	潜り戸を塞ぐ香りの花みかん <small>柑橘類はいまが花どきどこからともなく漂って来ます。</small>	故郷の夜の闇深き墓の声 <small>闇夜の深さが伝わります。</small>	松落葉遠音に風のありにけり	空を見よスマホを伏せよ春が逝く <small>同感の一句。中村汀女の「外にも出よ・・」を彷彿。全く同感です、と言いながらネット句会に投句する矛盾。</small>	甘酒やほとんど甘くないことも	貧しさに慣れ新緑のいよ濃し	亡夫掘りし筍飯を囲みし日	感謝感激二倍返しの薔薇の花	青葉風一礼をして登山口 <small>夏山シーズン到来ですね。緑色の風が吹き抜けていく。</small>	朝市に嫁のほまちはじき豆 <small>ほまちはよく遊び疲れてぐっすり寝る。この様子か下五の子の寝顔から伺えます。満ち足りた午後の空気を感じます。緑のなかの外遊びでの心地よい疲れ。子供の寝顔が目には浮かびます。満足しきつた寝顔が目には浮かびます。季語と中七・下五の子のエネルギーが一致して秀逸。</small>	天窓を打つ五月雨や「ラ・カンパネラ」 <small>超絶技巧の曲との取合せ、さぞかし激しくかつ官能的な雨だったのだろう。「ラ・カンパネラ」が季語と調和している。</small>		
小林京子	染谷風子	せんり	渋谷きいち	龍野ひろし	後藤允孝	霜里	網野月を	みづる	後記朝香	森下山菜	青木鶴城	森美枝子	丸山マスミ	秋谷風舎	

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
荒一葉				允孝 風舎				允孝 佳月	せんり	由美子 みづる	暦文 かげろう	暦文		
人生は八掛けでよし栗の花 <small>柿の花が実になるのは八割あればよし、人生も八掛けでよし。</small>	薄暑かなりリュツクの老女息継ぐよ	バリトンは九十翁や青嵐	亡き人の白シャツのしみ指をおく	江ノ電や駅に降り立つ春日傘 <small>春日傘がお似合いの駅は鎌倉駅でしょうか。小町通りを散歩するのが良く似合っているのでは。うららかで明るい湘南の景が浮かんでくる。同時に、お洒落で素敵な女性の姿が浮かんでくる。明るく春風が薫ってくるようだ。</small>	チェンバロのゆるき音色に眠る薔薇	石畳飾る奢莪の花の影	夏野来し列車の窓のうすみどり	人生や母の日いつか妻の日に <small>そうですねこの句のように、いつの間にか母の日が妻の日になっていくようです。我が家も同じです。子供はいつか巣立っていきますね。</small>	梅雨晴れや回れや回れ洗濯機 <small>梅雨晴れに洗濯しているだけの情景なのに「回れや回れ」で勢いよく晴れやかな、夏らしい印象を受けました。</small>	すれ違ふ釣竿長し夏の雲 <small>楽しいですね。何が釣れたのでしょうか。明るい季節の扉が開く予感。</small>	神池を渡る笛の音薪能 <small>薪能の情景が見えるようです。上五中七がいい。</small>	苺にも海にも母や悔いの字も <small>母の愛は甘く深く時には過ぎて悔いることも。</small>	アカシアの花見て思う青いトゲ	ダービーの前夜は皆が的中者
西村青夏	高原ひろし	河野凡士	新井のり子	檜鼻ことは	古賀由美子	山中いちい	竹淵あきひこ	日高道を	はるみ	石関六弦	村杉清吉	本橋稀香	しーしー	かげろう

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年三月
かげろう					稀香 しーしー	はるみ		のり子 美枝子 ことは 佳月			凡士 月を 鶴城 はるみ		美枝子 音思 清吉	あきひこ	
青嵐髪長き頃この樹下を <small>髪を切ることになった理由を思わず想像してしまう</small>	重き罪負ひて生きるや蝸牛	荷風忌の電車は足と口とぢよ	侘寺に埋もるが如く燕子花	地場産が売りの麴処麦の秋	渡殿を潜る遣水花菖蒲 <small>平安時代の麗人が現れそうです。建物と庭と花とが見えるようです。</small>	疲れ鶉に鶉呑み許すや式部職 <small>どんな罪なんでしょうか。</small>	ときどきに羽を濡らしぬ川鶉かな	成り切って鏡に唄ふサングラス <small>サングラスの世界観で夏到来を表現している。ロック盛んなりし頃真似しました。楽しそうですね。サングラスは不思議に人に魔法をかけますね。</small>	眩しめる木香薔薇のアーチかな	遠き日の勿忘草や君の笑み	老いてなお苺ミルクの匙舐めて <small>好物はいくつになっても子供のよう。ふと気付くとやっつけてしまっています。思えばそうかも。可愛いくて、美味しいさが伝わって来ます。</small>	航跡のおぼろの中に消えゆけり	マネキンの目元すつきり夏めきぬ <small>遠眼差しに夏を感じてスッキリした。夏らしい装いをさせると目元がすつきりしてみえるというのは面白い視点です。マネキンの表情表現が、季語を生かしている。</small>	蝌蚪生る筆で描きし点の如 <small>描写が秀逸。</small>	
みづる	青木鶴城	森下山菜	秋谷風舎	森美枝子	丸山マスマ	俳爺	茂樹	新暦文	しんい	倉田詩子	森佳月	衛	荒一葉	幸子	

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年三月
京子	のり子 月を 京子		荒一葉 しーしー 朝香			しんい 荒一葉 霜里 鶴城 みづる			ことは はるみ			しんい 鶴城			
風薫る京に巨匠の息吹満つ <small>取り合わせの妙。</small>	緑陰に人待ち顔の献血車 <small>献血車の擬人化がいい。近頃はそうですよね。献血車の取り合わせは類句があるが中七がよい。</small>	隅田川の橋幾重もくぐる夏	風薫るアガパンサスの茎の伸び <small>すつくと伸びたアガパンサスの茎に初夏の風が気持ち良い。そんなに伸びて欲しいようぶ？アガパンサスの長い茎と薄紫の花に初夏の訪れを感じる。景が良い。</small>	郭公や数字疲れて朝の靄	街路樹の根方の坪の姫女苑	包丁を研ぐ音軽し初鯉 <small>折角の初鯉、包丁の切れ味が悪いと台無しですもの。初鯉を裁く嬉しさが包丁を研ぐ音を軽くする。初物をいたただく幸せが音に出る。初鯉を目の前にして心も軽し。簡潔な表現で瞬時に実像を浮かび上がらせる。</small>	老いの時間は撥条仕掛麦の秋	何事も女は度胸梅雨上がる	もしかして夏もしかして片思い <small>片思いとはこういうものかもしれないね。もしかしなくても片思いも・・・</small>	口開けて笑え笑えと鯉のぼり	風に乗りふはりととまる糸蜻蛉	曇天といふ百合の香の重たき日 <small>百合の強い匂は湿度が高いと尚更ですね。折角の百合の香りも曇天ではね。</small>	耕せし土黒々と柿若葉	いちいちやむやみやたらに螻螂子	
日高道を	本橋稀香	石関六弦	村杉清吉	小林京子	しーしー	かげろう	渋谷きいち	染谷風子	せんり	霜里	龍野ひろし	後藤允孝	後記朝香	網野月を	

												78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年三月	
													しーしー 清吉 朝香	道を		
												好きなもの祖母の得意な豆ごはん	夏の雨朝より点る街路灯 <small>じれつたいですよね、アジサイは。紫陽花の開花の時節をユーモラスに表現しており見事です。紫陽花の咲き始めの様子をユーモラスに表現されている。</small>	重たい雰囲気良く伝わります。		
												山中いちい	はるみ	竹淵あきひこ		